

夏休み期間中の7月23日(火)に夏季セミナーが開催され、外部からたくさんの先生方や福祉関係の方に参加していただきました。午前中は、本校を会場に事例検討会が行われ、午後は、石川町共同福祉施設に場所を移して講演会が行われました。今回は、その様子を紹介したいと思います。

事例検討会の様子を紹介します

県中地区、県南地区の学校関係者だけでなく、福祉事業所からも総勢17名の参加がありました。本校の教員で編成したグループに入っただき、各自持参した事例についてケース会議を行い、有効な支援策について話し合いました。



「行動面」「学習面」「進路面」のグループに分かれて行いました。事例で取り上げる対象児(者)の実態、問題となっている行動の背景要因、支援策について話し合いました。

付箋を使って支援策を出し合い、その中からすぐに実践可能な支援策を選び、2学期からの授業や対象児(者)とのかかわりに生かしていくことができるようにしました。



～事例検討会に参加した外部参加者の感想の一部を紹介します～

子どもの問題行動を焦点化していただき、改めて担任している子の見方(多方面から見ると)について勉強になりました。対応策についても、考えられる手立てを出していただいたので、できることから始めたいと思います。

(行動・情緒グループ:小学校特別支援学級担任)



個別の支援方法について専門的な話をいただいて、とても参考になりました。今後少しずつ自分で実践して、子ども達のために頑張っていきたいと思います。

(学習グループ:小学校通常学級担任)



今回の事例検討会をとおして、複数の目で対象児(者)の実態を捉え、支援策を考えていくメリットについて実感してもらうことができました。



講演会の様子を紹介します



午後の講演会は、石川町共同福祉施設で行われました。本校とたまかわ校以外にも、地域の学校や保育園の教育関係者や福祉関係者等、総勢約180名の参加がありました。講演内容は、「読み書きに困難さを抱えた児童生徒の理解と効果的な教科指導や支援の在り方」という演題で、宮城学院女子大学教授の梅田真理氏から講話をいただきました。学習のつまずきの背景には「読み」「書き」「計算する」ことの困難さがあることや、学習の実態を踏まえた具体的な支援方法について学ぶことができました。

<今年度の自立支援協議会の取り組みについて>

◎地域支援センターでは、下記の自立支援協議会に参加し各関係機関（保健福祉課職員、保健師、教育委員会、相談支援専門員、障がい児通所支援事業所、医療関係者、管内小中学校代表、幼稚園代表等）との連携を図っています。各協議会での主な活動内容は下記のとおりです。

①須賀川地方地域自立支援協議会 こども支援部会【須賀川市・岩瀬郡（鏡石町・天栄村）】

○ほぼ毎月開催しており、福祉サービス事業所等の参加も多く活発に活動しています。また、他の部会（就労・生活・事業所）とも連携した研修会や「サポートブック活用講座」も実施しています。

②石川地方地域自立支援協議会 子ども部会【石川郡（石川町・浅川町・平田村・古殿町・玉川村）】

○今年度は石川郡内で共通するサポートファイルを各町村の保健師の方々が中心となり、「石川地方サポートファイル（仮）」を作成しています。年度内での完成及び地域に向けた周知を目指しています。

③しらかわ地域自立支援協議会 教育・子ども部会【白河市・西白河郡（西郷村・中島村・泉崎村・矢吹町）】

○須賀川と同様に事業所も多く参加し活発に活動しています。今年度は「医療的ケア（児）地域支援会議」を実施するなど県内でも先駆的な地域に向けた取り組みを行っています。

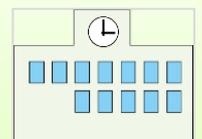
④東白川地域自立支援協議会療育部会【東白川郡（棚倉町・塙町・矢祭町・鮫川村）】

○年に1～2回程度の開催の為、なかなか継続した協議が難しい状況です。今年度は「東白川サポートブック」のアンケート調査の結果を踏まえ、様式の見直しや周知方法について協議する予定です。

<出かける支援（8月末現在）※切れ目のない支援体制整備事業>

○相談支援 6件（幼稚園・保育園3件 小学校3件）

○研修支援 9件（教育委員会等6件 幼稚園1件 小学校2件）



石川郡以外にも白河市、西白河郡、東白川郡、岩瀬郡の学校や教育委員会から依頼があり、支援に出かけました。